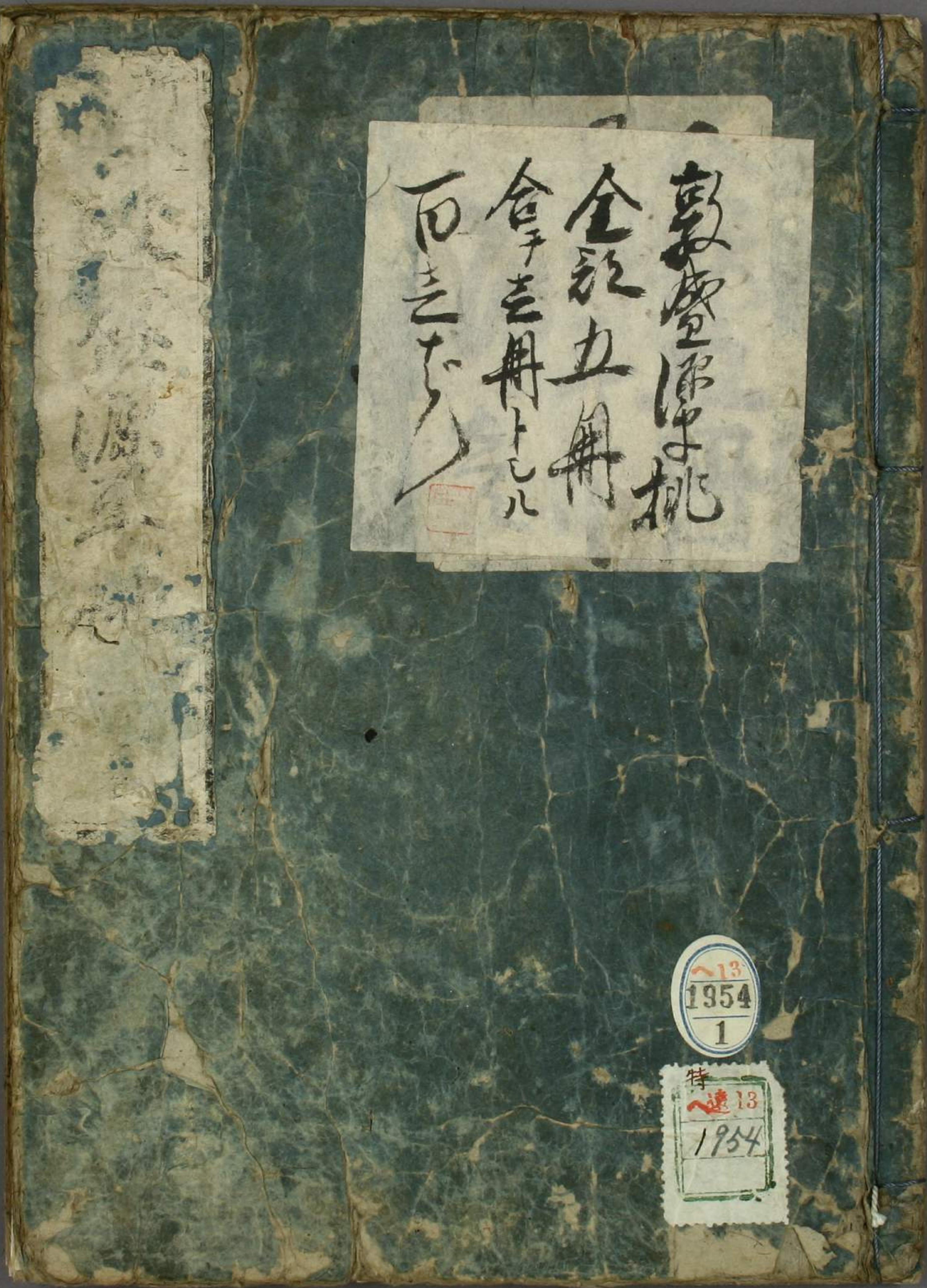


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



13
月入達
1954
精文

力

序

徒然あう経アリ宋枕乃下に腰這
往昔の旧記紙摺あ葉を口ニ一味
線み絆せ敷盛然若の事蹟と探り
ゆあ立卷れよとわせへたノ也
全く児女の口づきに身紀姿も
新一やん事代來て敷盛源重枕

也号け又うへの歎を導んと
欲うといふど毎事却れず賢ひ草紙の
桜を見て古敷チん事を思ふやうに

元文六々酉の

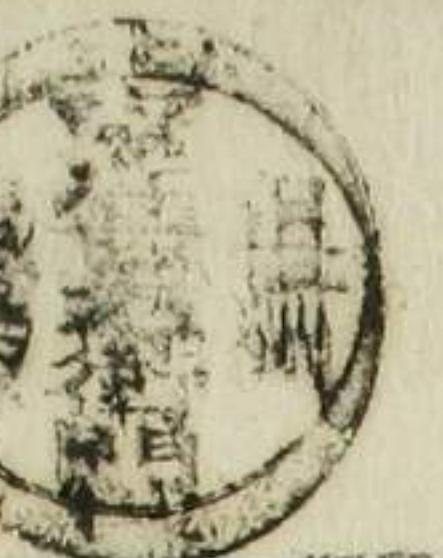
年九初春

八文字

自矣

二字

其矣



同孫

一之巻

敦盛源平桃

第一

親子の公ハ二門に引若西れ侍
庭の揮除ハ吉浦秋篠山のあら
森に人め波多び萬千の密の首

仗志の男にねねするすどん侍

オニ

欲に心のれ真ひゆうましむを神

姫の凡もハ秘曲致はくす琴の組

虎団達ひも老人の凡もおわざれ

公底と見限てもやまとか白髪親文

オニ

二親に歸りて絆び合ひる妹宵下細

羽衣がむろ野支醫老ひも脇付拂毛毛

衆方親姐乃配制剂子細じミ十面

月代までても脉をあくぬ分別教

一 親子の心ハ二川少分る善惡の侍

死生命有富貴天に立とれ夫の金言誠に耳少聞
て風のやくねある事とあらひ不義ひて富う者もも。不
義生にてわ遠の名生す。若世名みまきをアシテ
義理も作法も報ひも。す。唯金銀と云ふすたを
へんとても。天令あれど金りよけと來めて却ち損失が出来
程に。今うち天みほせてむと信出せ事もつぬものか。
又書生すとて平生瘡といぬもの。常往地夷をと
薑氣湯も。乳血汰浦之事と考てザマヒにせうどん
ひよて苦す。いひ馬鹿を本ちやともして。ひよりの不
產生にて病なりとやかくと苦して何とすら事もな

妻貢に乞とよせられて天令也と思ふ者。あまねかうの豆絹
よりあらて、終に一生人れ役害とあり。かく様と爲
せ間にまきあし。故死生令有富貴天に立とす。養生
もうじして令絹全し。ちのきが為極きあとはて其上の
家貧にほへし。さき次天令とつぞし。遠き昔を遡るに
平治のいそきに源義朝清登に封す。野弓のうつみにて
長圓の名号が爲にさきよひてより。平氏權代執て威絶
海内。よし源氏の新系慈惠がこめてうど。或は生
捕れて。實に天令にて平家の富貴榮耀に時に始まら。然
にかくさされど、亦て源氏の裏うち。くあじ中み。義
朝の三男。おも佐頼。いま三十罪にており。けつ次生捕
あくせ。既小討せられ。す。毎かりと清登の繼母にておせ

池の深尼。あすれ。清登にゆきとよす。ひういとのもれふべと。
はす清モリ。一向山をかきもと。命令とたすけうとのほひり。
かくされば。清登一大事なりと。ひういひかく。母の経もと
さんもひうとて。終小令絹たもひく。併豆室極あぬ。流
られぬ。富貴天に有といがれの事。やれ。約。流人のけよも
放と。おみがくひが絹と。考と。考。其中に伊
豆の國の住人。伊左少。祐と入。れ。約。放と。それと。す。
わ前へ。伊左少。も。放。し。種々の地主。と。こ。び。行。と。も。ひ
も。有て。海白河の清登の寛。宣と。下。す。二。度。義。吉と。ゆげ。れ。ば
家を。す。源氏の。縁。と。あり。今。じ時。の。縁。は。絹。奉。下。に。は。ま。し。と
公に。た。の。も。ひ。しけ。き。ど。も。え。本。利。智。潔。く。正。勇。と。ゆ。事
あき。お。放。ほ。ひ。わん。と。す。む。往。の。事。も。あく。日。和。沙。て。逃。げ。



りあとまことのひのひそかうすうへはきみのあに
て。教誨云承軒度安にて宿あるんとの仕事で揚よ河原の
三島放以て。ばゆをや送りされば。教誨は收有て河岸とを
石を。又入ほりての親切もそれがに。且亦宿あのひ事と
やん足もさうもの事。きばの社説ありん。おしゆきの日
あ爲くや。かにゆあにてもすなゆく事うと。行有きをば
三島鳥帽子を身に身。大紺の紹介かき合して。やきう。
行の通文入ほりて。おへは後。かにまゆきや老とハ流
すゆくは。唯君は一人と相語り。もんあう。日限ハ約
天を終はざと。ゆくと。一。壹時よりもか。先駆を取まと。
達でのけきばとうとも。古。兵。歩。もも。人。破
あぐさりん。おがじき。今。か。相。成。程。壹時より入ほりて。

越く海。しげ通三海て。ヤセれ、面海に。の。しゆよ海。しゆく
島をよかく。ちらばき。身次も。はの事を。感ふるまうもと。
あめす。すれ。ひねじ。あう。を。い。ば。の。浦も。魚。ん。を。い。く。は。
流人と。ゆく。でも。わくの。宿。軒。度。又入ほりて。と。す。て。あ
さわ。あく。すれ。ば。げ。も。わ。そ。の。ひ。繁。ひ。れ。れ。程。に。ま。ぞ。快
き。暑。に。り。ど。か。そ。の。ひ。ぬ。事。と。と。ひ。う。き。ろ。と。思。ひ
せ。け。ひ。それ。見。に。ま。及。く。は。我。い。よ。と。教。誨。を。贈。に。う。し。お
に。か。き。中。と。取。り。よ。と。せ。け。る。が。教。誨。入。ほ。り。が。振。き。教。誨。に
跡。に。の。ち。ん。と。教。誨。を。す。う。が。く。は。よ。海。こ。び。く。あ。ん。と。教。誨。中
に。か。き。を。り。ん。じ。よ。う。い。き。し。う。ど。し。く。は。う。ハ。宿。度。見。ア
と。も。口。す。入。へ。あ。じ。某。ハ。ア。の。身。と。又。入。ほ。り。す。ま。う
し。い。う。う。車。あ。ん。内。ハ。難。伏。教。誨。と。肝。事。と。一。人の。ミ。逃。の

中。何をあくらめ。かくて又の候。女房處内は呼よをゆふ。
女房作後派すなきあらずせ。奥れ亭にて、女房と直後にへん
なる。おほのまづははおとくてアもうしげ今源氏の所あれば
平家乃きこくせうれむありと。一通もてゆふもあゆふ。されど
あの人の面辨容貌。いは源氏の太ねた。併れり。幸も有
相あら人をれば。又アラニス。ぬうへどもられあうかのを。若紙
あくさんあるのは考あれば。是れく由出でれすと。口をほ。
必竟いはるすと。ソア。併はゆの。もかれね候に。奥れ亭の
掃除庵の庵石も。ひし。為繋と拂て。ききいふゆれ掃除
せすと。ひがきを。ば。術をも。より。れは。書代の仲弓。白髮人
故娘め。皆く。掃除す。か。ま。女房様。ア。と。づ。は。が。さ。う。き。ぐ
入に。あれ。今。お。百。の。す。も。ひ。き。つ。き。と。れ。ー。中。あ。う。う。う。

男子き人女子を人有でお事や。ー。女房は。と。じ。う。と。
ゆうに。や。ー。や。う。き。う。人。を。れ。ば。お。女。房。作。後。派。す。な。き。あ。る。ず。せ。
氏の云達。それの。寝人。行。事。れ。は。用。あ。と。ん。も。あ。れ。ど。
ひとく。小。妹。娘。を。そ。に。か。く。と。告。あ。と。れ。され。ば。を。そ。い。書
て。より。お。は。う。ケ。ー。作。後。の。ゆ。ふ。と。ゆ。ア。娘。ー。さ。か。ざ。う。う。う。
母に。じ。う。い。ば。ち。う。そ。の。履。元。ー。お。れ。夏。あ。れ。日。う。う。に。は。舅
有。と。ん。と。は。お。り。ね。た。女。房。作。後。ハ。源。氏。の。嬢。流。と。う。け。う。
あ。く。ぞ。れ。ば。女。房。の。寝。意。も。定。て。よ。の。つ。の。あ。く。ぬ。ゆ。す
に。て。ち。ん。感。と。ん。あ。れ。ば。女。房。の。く。の。行。事。も。か。こ。あ。う。う。
と。と。お。や。子。を。う。う。ん。ゆ。い。て。娘。ハ。娘。や。母。ハ。居。り。ー。と。引。き
て。あ。そ。ハ。入。に。け。り。五。鉢。と。つ。よ。ハ。向。き。の。う。旅。室。ち。う。
ゆ。と。に。本。勇。人。に。す。れ。お。御。又。洋。ー。謹。に。母。の。語。

後改、更継て。世にわたりきありのそら。そりも書く
ねば。はのまのまやうく依頼のりとよノ高麗うけり

(二) 欲に心のあ興ひ振舞ひを教る

誠ハ心の徳ありて。上を人たらト士庶人に勤ります。あれ
とをあざぐらじば。公に敬すくづゝよりかずりものは平生には
足りたぬとかの内そち虚実自説と河原よりえある。
伊勢入道旅を公にらむする事有て。去来依頼改あ
亭に詣候し。山海の殊味改らの。庄屋のそくら庭に
ひ杖のふげうつて。和錦織の地と見せ。法本れが繁ア
風雅とらうり。園のろにハ金比多もあんくと湯沢
とまうせ。本の掛地も生にもさされあげ入。不候の向ふと
ゆう様改等ハ。本家にさらよわうじども。船初幸より

如うの事に貪焉あく様のそりうーととを教の事に
してハ者車をうめと計らふるに至る事とぞをじ。一
往日ニ軍去依頼にて合戦すれば往て亡とつ刻ナリ
敢不者ありといへ。これも往てやうやすとよし内ひ故と部
すにむ利互日ありといひ。の元ねハ身ひとめりとて。
ひとめりと事もかうじとて。え本をまの大船と仰れ
うふ天性也。婦人女子めどくわ忌もこま事からり。一
併者へともまん然かうてかくのとく白玉れ様といひて。
車駄あく洞ひとが。載物の車や。蓋の役者かと車を
とつる家の子とをさす。お約束する。しよまくは本裏に
かけ。太小いふしく猪こよし。猪改強て立ゆ。大と車を入乃

うあに詠き。ばりの越前守へよし。す。徳川にとどき。追分
これへとよろね。まつむらね。めりよとよ声に
ゑ次のね立向へば。まつみ。徳川。まつみ。あ
も忍業のから衣をされ。ば又卷羽うちあづくまひ。
主代のぬをかせひげ切丸。波多野をりり長におそ。おゆみ
り。新。ゑ次の侍。こゑを波多野。ちりきうと。そ波多野
して奥。かくへ。へ道にかくと。拵。仕ければ。へ道。候。ひ。出。じふ
取。と。さ。び。ゑ。達。の。山。え。北。那。お。ち。と。こ。と。と。室。内。よ。
奥。の。亭。へ。街。へ。ま。り。は。伝。の。行。お。や。く。表。長。加。夜。夜。廻。廻。
づ。き。も。皆。それ。く。に。す。て。か。ー。て。す。旅。村。の。山。新。美。吸。あ。お。
こ。ー。ち。小。姓。の。結。社。わ。脇。奥。に。た。じ。ど。く。と。娘。ひ。て。づ。に。勝。
き。ー。へ。た。の。食。通。う。朝。こ。にも。甚。身。に。へ。う。や。内。う。う。て

入道祐と嫁娘。見とけ。ひ。産者に。立。おれ。翁。の。ゆ。あ。と。く
側。こ。ー。て。や。き。う。あれ。れ。末。が。祕。嫁。娘。を。ゆ。と。ナ。老。に。て。は。日。は。
の。あ。く。さ。み。に。あ。への。店。ひ。か。ー。して。琴。三。寺。せ。ん。に。か。ー。
く。障。圓。の。法。布。も。な。ぞ。ぬ。経。の。き。よ。う。也。今。日。お。納。り。そ。で
お。糸。山。經。の。経。じ。始。ク。一。曲。山。す。ア。れ。も。と。娘。自。識。の。裏。
毛。と。の。ぐ。ー。て。ア。よ。れ。は。湯。底。の。く。無。に。て。是。へ。た。毛
の。一。へ。山。毛。を。あ。る。今。に。て。ハ。禪。居。の。山。見。琴。三。寺。せ。ん。と。石
平。に。へ。た。事。も。叶。と。経。を。へ。た。な。に。指。墨。と。い。れ。ば。世。乃。を。き
も。か。い。よ。と。し。一。曲。山。不。重。う。詩。と。と。奏。も。か。五。歳。い
づ。れ。も。あ。き。う。き。ば。り。そ。く。ま。され。ば。を。そ。娘。ひ。通。る。今
作。風。と。人。あ。れ。ず。の。い。セ。の。か。く。ひ。て。こ。あ。あ。て。つ。う。か。波。人
に。さ。と。れ。ど。わ。う。じ。魚。の。香。み。繁。ア。ー。う。じ。ま。

至風情墨書も而次ねぢ。毛筆も絵とあくまんとぞなむ。たゞいぢやぞと足りざりき。うれば甚や、墨淡かとぞ。鄙声の漏すゝる。下地の函に裏とりて、上をもひあにさづに乾か。琴三味せんの上手とぞ。一人をまよひ身しきりあ。毛筆勝とかぎて、もとばつぐ。内にむうひれまひきか。あひやしも、禮和の流派を。秀誠とえひ御船船くわぬ身か。下を流の舟とぬ。港まで向るゆとあくまうす。又まよじて、内原君と。鳥帽子成ゆうり御とらわす。事、事に越ての内装び。これとゆふものには、娘は漁ひきて、内装をアセーと。佐藤君也人にはすれうべ。かの跡をすり、深く感じ入りよどぎ太お

うち人のぬゑ、書き奉りて是によろて、筆の心は足らぬ。おき騒きのサのまちあうに足とれて、駄と説うに。をまにあられば、浮沉運數や。三宿や、も前や。舟へかく、む、療法院たのじ人馬べくす。えうり氣すくむかへときへたかれ。行ゑのま用を足そひき。げんちの思ひ、ねうつまく。あたといある事とみて、審査をもそ。大丈夫だらん。そぞもりて、しづしづ、男はゆうり。へよ巡遊して、もとれどもとくとく。やしんや、身の形のあひ、豪の子も。ゆうとく。それよろやもとく、船とくもその脚相。人をうる人は、書よか。首脳張方を表す。平親王ねつよ、勢ひと。たに官室は、所ん湯はうせしに、あひ、身の奥車うつて。ねつ金に逃げ、にねつまつた敵の内里。主將平舟にて。

をちうら著候持てらひとあつて石舟して是丈
の徑にゆすと入店。官軍に一通、並てお門が
付て是處に在せにあら。今まほ佐多よどと廻り。もぢ
に就と済せば事ありとまへて。却ち難波より車走定
せうとされうれぬとと墨。佐多次をまにむらひに
とあれ。強ればやうる人平生の行作進退にむとまき
事あり。たま政ちうて身と敵ね勇士へまき人かく公
おけはまよじく。さまでの害心へす。被廻せきの
事例はうす。禽獸との身にかけ。忠義と外れう者へ
やもすれふうどきて。わらても身ひ方もを。同股や
歎とまく。彼に主害れねくねまう。佐多五年におハ
きれば。けふにふきずるをされぞ。おまくの徑にむ

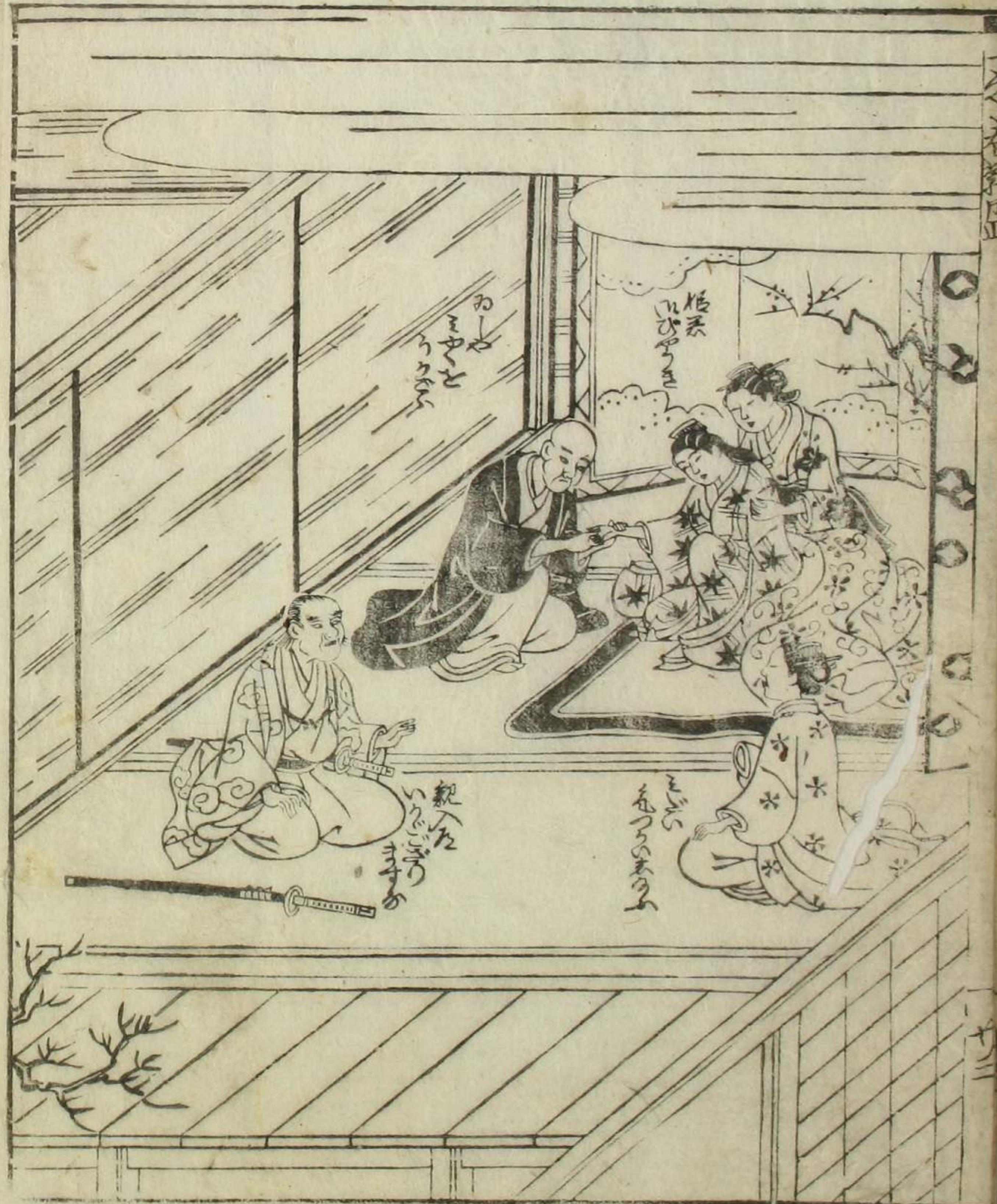
かう龜き事あり。あきよう旅をひどきひきて。そひ日め詔を
像にむかひらひにめり。彦春の身も何とかあて。事ま方
よううびの八面も出て。げつてに姿次す。すうと事と史にて
焼うど。あぐれゆ。あひに寝とゆと合ひ。自説とを絆れ。
素も京康など。べたうすしら。すとあゆ。佐多とす先
やて。りも承も文宣をいし。方退居に因産あるをくへば。
坐まされととよけ。作多いもそが情にまづく。往志を
あがく。あがいさめにかく。いとめごひとせま。もぞ
まにあがくはほきせども。ゆきぬ世ぬうと血を。
こがひにゆくよせ。佐多は古鏡にぞゆうきぬ

③ 魏にかくして結ひ金昧す。下訳

相引ては一向にすれもやぬそれな外と云ふあき

人りるかしも。をき姫ハ佐々。一世も三世も即ちじと
いひよして。まに人ち次第。又へた。あくとねす。
きふえゆもとゆかむ。ほりりくしたのねまう。
うのひうちを是姫のち腰をきよあう。姫の稚ハリヤ病
にてひりすやと。又のへた姫ておどきて。入れ醫者に
腰をかでりせむと。足すりに。足方娘難代おとて。療治
す。野史醫ハ是ぞひろて。立ちの山病氣。至体病の
血脉の氣ひりと。子細じくによひひりとつた。元末
後漢医書に。うき庸醫。かきは。至腰病伏極す。醫
門脹滿門に。似合姿き。見て。腫脹の苦痛との角
酒み丈に。驗をく。へたえより丈育をば。醫者の苦酒伏

あべ姿三醫者の姿されば。づとも醫者なりと。あて
手すりと。筋筋にする。粗用れども。聲やどもす。うだ。
あれひうふと。おどき。身を。バ卦。伏見す。それ。荒神
の祟り。すりと。ひ。而両のすり。男れ。みを
つめ。ひひちせば。いよく。へたす。ぬ。公ますひ。伏
神。お伏けのやものにて。なみのきて。同モア。けり。を。す。
き。同ノア。すれ。荒神。乃理。陰陽合術。一。事一元の氣
か。まじ。腰脹をき。か。う。十月と。上月に。う。て。
は。姫。小後。御。あき。に。て。や。くと。男。を。す。
た。お。あ。れば。へた。大き。に。發。て。先。事。せ。汝。よ。び。



ト女腰トコロやなとよびあつめて、いこしき出トコシキてアラカハ
あかゆてより平家ヘイの妻ヒメ、姫ヒメにす
とつとも。娘ムネを容ナガ人に勝ハサウエりゆ。平家の云クモの
中ウチ或カミ、大内家タケミの云クモ位カタる女の夫族ヒツヅルにどうて
入ハシが威勢カタマリと上げ。老シテの樂ヨリにせんもと。おりひもよけ
一イチかひもよく。の老シテのふともちれに。爺ジイをふは彦ヒコよけ
し車シマツ。細スレくゆきぬめヌメが性セイ悪アラク。渋シテども知シぬ事モノ
をゆひ。おの子とよ車シマツをなに物モノせよ。あらからう。金カネ
腰トコロに引ハサウエくにあて、高タカ安ヤマ曲カーブ事モノにこくよ。有アリ。也
若カノんと面ハタケそめ。へう栗カシのく海シマうきて、いうぎ。ば
裏カミ女メイうめづも。すううめづねみうれい。見ミ合ハグ
て細スレく。らラうひいて、居リうちしが。中ウチにも萬女腰トコロ

下トコロ女腰トコロやなとよびあつめて、いこしき出トコシキてアラカハ
あかゆてより平家ヘイの妻ヒメ、姫ヒメにす
とつとも。娘ムネを容ナガ人に勝ハサウエりゆ。平家の云クモの
中ウチ或カミ、大内家タケミの云クモ位カタる女の夫族ヒツヅルにどうて
入ハシが威勢カタマリと上げ。老シテの樂ヨリにせんもと。おりひもよけ
一イチかひもよく。の老シテのふともちれに。爺ジイをふは彦ヒコよけ
し車シマツ。細スレくゆきぬめヌメが性セイ悪アラク。渋シテども知シぬ事モノ
をゆひ。おの子とよ車シマツをなに物モノせよ。あらからう。金カネ
腰トコロに引ハサウエくにあて、高タカ安ヤマ曲カーブ事モノにこくよ。有アリ。也
若カノんと面ハタケそめ。へう栗カシのく海シマうきて、いうぎ。ば
裏カミ女メイうめづも。すううめづねみうれい。見ミ合ハグ
て細スレく。らラうひいて、居リうちしが。中ウチにも萬女腰トコロ

二二
思惑やハ推量とお遠てて誠と解する上意難と爲どやせんやくや
もくらんと思葉鳥すと。ハズ殊無て。ちのきがこそ鳥音ハ。ハズゲ
リテシと國ひぬ。おみがだくいや。事討にせんと。既より刃に手をゆけ
られけり。西幡子。阿波のニテ。奥の弓にて。ねよと。まき。年て又が
手にすがつて。よきる。蝶を。まぐ。弓の上。衝う。が。おき。入る。去る。
大車代役と。母。も。か。もし。も。か。み。お。身。に。仰。さ。れ。ん。う。げ。阿。は。に
仰。す。こ。し。そ。の。よ。と。産。子。と。迷。に。歎。害。一。ハ。横。を。や。そ。ん。先。く。教。う
捨。て。誰。と。教。て。よ。あ。け。り。み。ぞ。へ。な。も。た。と。あ。り。ひ。御。く。御。に
ナ。お。り。う。そ。の。こ。せ。ん。小。片。と。難。て。仕。也。ひ。き。の。あ。そ。死。骸。死。へ。通。す
ス。を。よ。と。面。と。わ。げ。て。ア。衣。ば。財。收。ひ。て。收。經。れ。ん。す。い。今。ア
ホ。に。産。子。と。引。立。あ。べ。媒。お。び。ん。に。さ。く。い。と。の。や。セ。て。血。單。と。云。ふ
病。に。あ。き。手。も。あ。り。ん。う。れ。ば。わ。一。合。蝶。グ。さ。き。う。て。す。く。ね。す。に。

子と。お。れ。り。ゆ。か。は。立。勝。も。き。こ。と。ど。め。体。氣。、源。氏。乃。ふ。さ。き
あれ。こ。そ。日。吹。詠。主。妻。を。も。仕。す。人の。ま。に。も。朱。結。名。の。ふ。と
ひ。あ。く。は。さ。ま。そ。う。咎。も。ふ。ギ。と。推。量。し。て。血。う。ち。と。て
ア。き。ち。の。姫。君。の。う。ひ。か。と。す。ふ。ほ。方。ハ。平。人。金。て。ハ。ル。づ。す。か。く。ち
源。氏。の。始。流。あ。て。か。り。酒。モ。幸。往。度。の。は。す。に。て。は。と。幸。も。う。け。に
ソ。底。ま。う。へ。な。太。き。に。ね。亨。て。振。そ。も。く。肉。と。佔。名。の。ゆ。ま。ひ。
含。急。ゆ。す。す。り。ど。も。モ。ソ。や。源。家。再。興。の。忌。量。も。あ。く。よ。く。人。ね
う。と。ぞ。ひ。一。ゆ。熱。と。氣。の。が。ぬ。う。に。て。あ。ら。ぐ。な。の。御。乃
不。貧。人。あ。れ。ハ。ま。の。れ。も。す。け。事。平。家。へ。す。て。ハ。入。と。数。ひ。
源。氏。へ。か。と。か。よ。す。か。ど。答。め。に。きて。ハ。大。車。も。る。沖。よ。ひ
キ。も。経。に。む。と。年。を。あ。く。て。例。川。も。海。う。け。ハ。ひ。そ。か。に
あ。め。こ。ち。て。ば。入。に。て。ん。せ。す。と。亂。と。づ。ち。せ。き。し。せ。い。て。い。ろ。け。れ。ば。

あかこらして背にかゝりとた。一
病者にてひづきすすめの害にま。三
右のせをよ。ふ一あがるに宿免の。かほ。幸鬼の肩に
腰とけみたる。それよりはほのうへ是れやと候。そ
ひもの不調。何事も宿免にて。お勝代をされといひま
立あれば。入ても老てへるに経て。とつ事もられど。され
そふと。是れやにひとぬとくを遙かして。鷺がどももう
ちし。四角八方とあくとぞつてぞつにける。

一之巻終

